# 「平成 26 年度（第 42 回）鳥取県産業安全衛生大会」が開催される

全国安全週間の取組の一環として、去る７月３日（木）に県中部の「倉吉未来中心大ホール」において、「平成 26 年度（第 42 回）鳥取県産業安全衛生大会」が盛大（参加者約 400 名）に開催されました。

主催者代表の挨拶をする竹中会長

第１部の式典では、主催者を代表して竹中由紀夫鳥取県労働基準協会長が「この大会を契機に、安全衛生の慣れや過信を一掃し、労使一体となった日々の安全衛生活動を推進することにより、労働災害の撲滅に一層取り組まれることを期待する」と挨拶され、来賓の平井伸治鳥取県知事（代理）から祝辞がありました。

続いて、河野純伴鳥取労働局長から「本日を契機に、今一度、日頃の安全活動の再点検と着実な実行に努めていただき、労働災害の着実な減少と安全・安心な職場づくりが進展するよう祈念します」と祝辞の中で、大会参加者に呼び掛けました。


祝辞を述べる河野局長

来賓出席した河野局長、丸山裕毅鳥取署長、神田哲郎米子署長、平井美敏倉吉署長、北代昌巳労働基準部長、木村靖健康安全課長

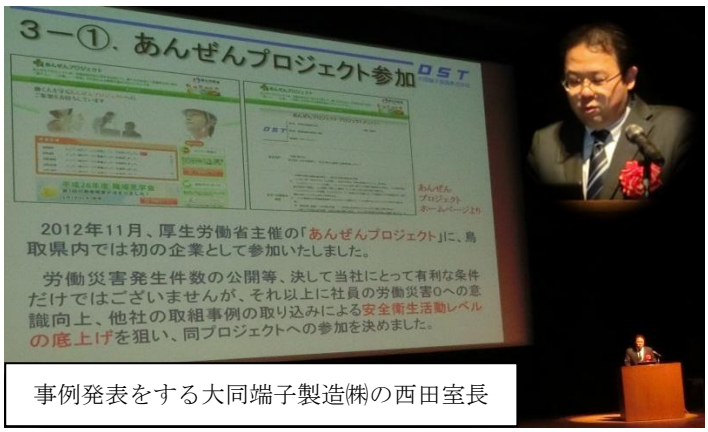
その後、各労働災害防止団体等から安全衛生や無事故永年勤続者の方々に対する表彰式が行われ、また、厚生労働省関係表彰披露がなされました。

安全衛生関係各表彰式

厚生労働省関係表彰披露

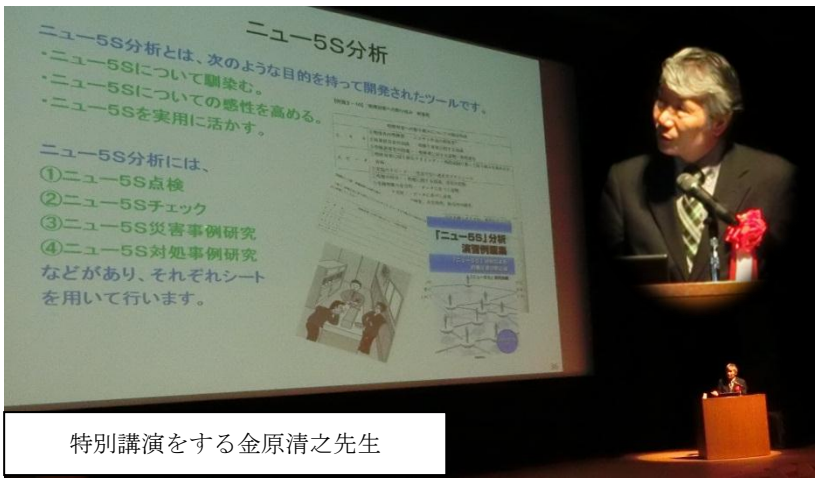
第２部の講演に移り、県内企業の活動事例発表において、境港海陸運送㈱総務部の森啓蔵課長が「受動喫煙防止対策の取組について」を、大同端子製造㈱改善推進室の西田幸司室長が「安全衛生への取組事例紹介～あんぜんプロジェクトへの参加～」をそれぞれ説明されました。

事例発表をする境港海陸運送㈱の森課長



事例発表をする大同端子製造㈱の西田室長

特別講演では、労働安全･衛生コンサルタントの金原清之氏が「『ニュー５Ｓ』を職場に！～労働災害の防止を５つのＳ(Skill、Speed、Science、Spirit、Safety)の視点から考える。～」と題して、新しい視点からの労働災害の防止を考える講演を行いました。



特別講演をする金原清之先生

第２部の最後、鳥取県労働基準協会中部支部の森安孝文安全管理部会長が「大会宣言」を読み上げ、参加者全員で労働災害防止を誓いました。

本大会の最後に、第３部の「お楽しみ抽選会」で会場が盛り上がって閉会しました。

以　上

## 大会宣言

鳥取県内における労働災害は、二年連続して減少したものの、第12次労働災害防止推進計画の初年度の数値目標は達成できなかったところであり、今後の動向は、予断を許さない状況にある。

一方、労働者の健康を取巻く環境を見ると、一般定期健康診断の結果で何らかの所見がある方の割合が約五割と高く、また、労働環境や就業形態の変化等により、仕事や職業生活に関する強い不安・悩み・ストレスを感じる労働者の割合は、高水準で推移しており、労働者の心身両面にわたる健康問題は一層深刻化を増している。

さらに、職業性疾病については、負傷による腰痛が依然多く、熱中症や化学物質などによる疾病も後を絶たない状況にある。

いかなる経済情勢下にあっても、「働くことで生命が脅かされたり、健康が損なわれるようなことは、本来あってはならない」。

全ての関係者がこの意識を共有し、安全や健康のためのコストは必要不可欠であることを正しく理解し、それぞれが責任のある行動を取ることにより、「誰もが安心して健康に働くことができる社会」を目指すとともに、受動喫煙防止対策の取組や自主的な安全衛生活動の促進をはじめ、『ニュー５Ｓ』という新しい視点からの労働災害防止活動も参考とし、「全員参加」による労使一体となった安全衛生活動を推進しなければならない。

今般、「みんなでつなぎ　高まる意識　達成しようゼロ災害」をスローガンとして展開する全国安全週間中に開催された本大会を契機に、第12次労働災害防止推進計画の二年目の目標達成に向けて、全ての関係者がその意識を共有し、安全・健康・快適な職場の実現を目指し、最大限努力することをここに誓う。

右宣言する。

平成二十六年七月三日

第四十二回鳥取県産業安全衛生大会